2021 年 4 月 30 日

2020 年度　総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 ※該当する（ ）に○を付ける	・共同研究（　）　　・個人研究（○）	
研究代表者 （所属・職・氏名）	文芸学部・教授・堀　新	
研究課題名	戦国合戦図屏風の基礎的研究	
研究分担者氏名	所属・職	役割分担
研究期間	2020 年 4 月 1 日　～　2021 年 3 月 31 日	

研究実績の概要（1）

研究計画の当初は、戦国合戦図屏風のうち最も評価の高いものの 1 つである、名古屋市博物館所蔵「長篠合戦図屏風」の調査と研究を予定していた。しかし、コロナ禍で史料公開が中止となったことにより、同程度の史料的価値をもつ兵庫県立歴史博物館所蔵「三木合戦軍図」の調査と研究に切り替え、計画変更を承認された。

「三木合戦軍図」とは、天正 6 年（1578）3 月～天正 8 年正月の三木城をめぐる攻城戦を描いた 3 幅の合戦図である。三木城の城主は別所長治で、これを攻め囲んだのは織田信長の部将時代の羽柴秀吉である。後年、秀吉は「三木の干殺、鳥取の かつ(飢)やかし ころし、（中略）高松城を水 責(攻) ニさせられ、太刀も刀も不入」（『浅野家文書』25 号）と豪語している。その「三木合戦軍図」は別所長治の菩提寺である法界寺（兵庫県三木市）に寛永年間（1628-44）制作と伝えられるもの（旧図）、旧図を天保 12 年（1841）に写したもの（新図）、旧図を明治初期に森魚淵（1830-1909）が写した三木文庫（徳島県）所蔵本、旧図をもとにした粉本である兵庫県立歴史博物館本の合計 4 本がある。このうち制作経緯や伝来などが全く不明であり、ほとんど研究されていないのが兵庫県立歴史博物館本である。本研究はこの兵庫県立歴史博物館本を調査・研究した。

絵画資料の調査と研究には、原本の熟覧と高精細カメラによる撮影が必須である。兵庫県立歴史博物館本を熟覧したことは以前にもあったが、手持ちカメラの撮影であったために調査後に十分な検討を行いえないでいた。そこで本研究では文化財撮影の専門家による撮影をおこない、あわせて再度熟覧した。

研究実績の概要（２）
調査した結果、3 幅には墨筆と朱筆による詳細な書き込みがあり、それらの多くは色指定であった。墨筆と朱筆の筆跡は同一人物によるものと思われる。そのなかには墨筆を朱筆で訂正している箇所もあり、ほぼ同時期の書き込みであると思われるが、いったん墨筆で書き込んだ後に朱筆で訂正したものと思われる。朱筆はそれ以外にも人名に関する書き込みがあり、人名比定につながるものもあった。 　このような詳細な書き込みは、粉本をもとに写本が創られたことを意味しており、絵手本としての粉本ではなく、写本作成のための粉本であることを示唆している。兵庫県立歴史博物館本の図様を他 3 本と比較した結果、旧図をもとにした可能性が高いことが判明した。現在は兵庫県立歴史博物館本をもとに新図か三木文庫本のどちらかが写されたのか、あるいは現存しない別本が制作されたのか、検討の詰めを行っているところである。検討結果については、2021 年度の『総合文化研究所紀要』に発表したいと考えている。

研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書

【図書】
『信長徹底解読』（井上泰至氏と共編著、文学通信、2020 年 7 月）p.1-p.397

【雑誌論文】
堀新「織豊権力論へのガイド」（『歴史評論』852 号、2021 年 4 月）pp.22-pp.30

【図書所収論文】
堀新「豊臣秀吉知行方目録」（日本古文書学会編『古文書への招待』、勉誠出版、2021 年 2 月）pp.92-pp.94